

水道水に関する意識／東京・大阪・中京圏

【水道水への評価】

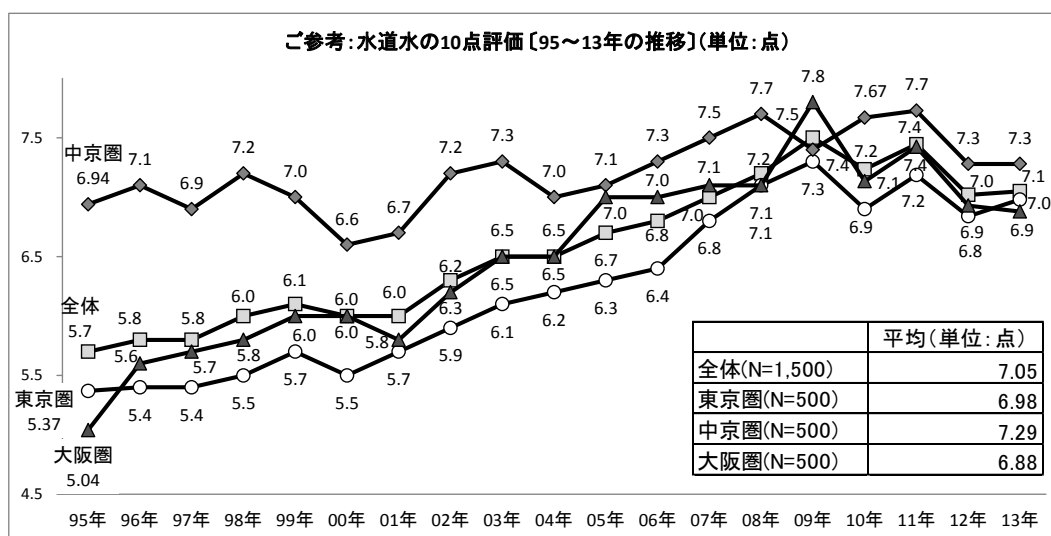
Q.水道水を10点満点で評価すると？（0～10の整数を自由回答）

◇全体の平均は7.05点

世界トップレベルの安全性を誇る日本の水道水は、どう評価されているのでしょうか？

10点満点で聞いたところ、全体の平均は7.05点で、1995年以降の右肩上がり傾向から一転してポイントを下げた昨年(7.02点)とほぼ同様の結果でした。

居住地別では中京圏が7.29点で昨年に続きトップ。昨年6.84点、6.93点と平均で7点台を割り込んだ東京圏と大阪圏は、今年もそれぞれ6.98点、6.88点でした。



*ご参考までに2012年までのデータを入れ込み、推移グラフとしました。

対象エリア：1995年…東京都、大阪府、愛知県、1996～2012年…東京圏(1都3県)、大阪圏(2府1県)、中京圏(3県)

有効回答数：1995～2009年…467～554、2010～2013年…1,500

Q.水道水を飲用水として10点満点で評価すると？（0～10の整数を自由回答）

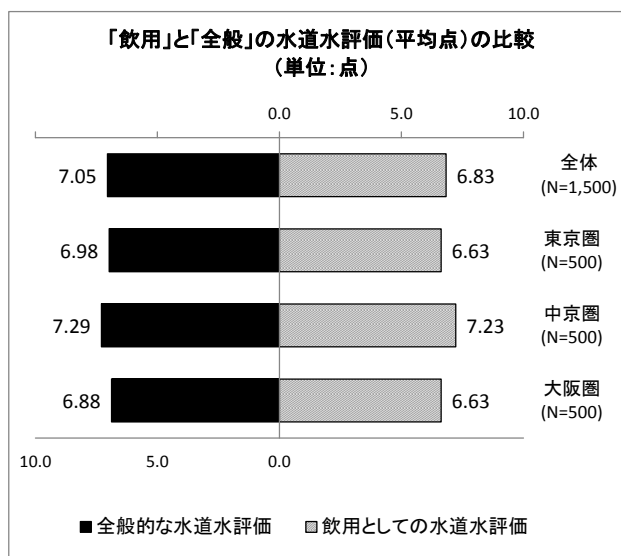
◇全体の平均は6.83点

飲用目的に限定した場合、水道水の評価に変化はあるのでしょうか？

前述の全般的な水道水評価と同様に10点満点で聞いたところ、全体の平均は6.83点となり、全般的な評価の平均(7.05点)より若干下がりましたが、居住地別で中京圏がトップ(7.23点)、東京圏(6.63点)と大阪圏(6.63点)の数値は差がないなど、傾向的には全般的な水道水への評価と変わりませんでした。

飲用としての水道水 10点評価(平均点)

	平均(単位：点)
全体(N=1,500)	6.83
東京圏(N=500)	6.63
中京圏(N=500)	7.23
大阪圏(N=500)	6.63



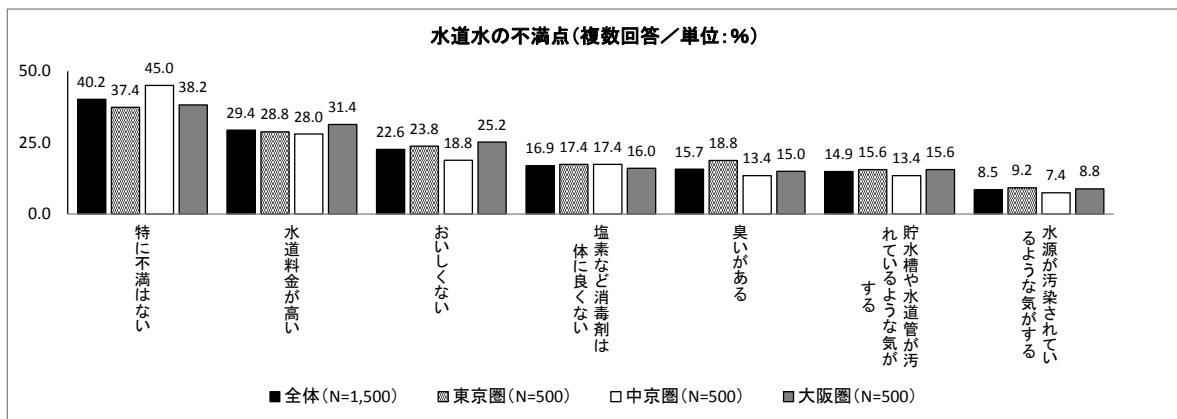
Q.水道水について不満を感じていることは？（8択＋その他＋特に不満はない）

◇水道水に一定の満足感か？ 4割超が「特に不満はない」

「料金が高い」「おいしくない」といった不満も、やや減少傾向

「水道水に対する不満」を聞いたところ、1位は「特に不満はない」（40.2%）で、全体の4割を超える回答があり、多くの人が水道水に一定の満足感を得ていることがうかがえました。

一方、「不満」の1位は「水道料金が高い」（29.4%）、「おいしくない」（22.6%）が2位と、昨年との順位の変動はなかったものの、いずれも一昨年（30.9%、24.1%）、昨年（30.3%、23.7%）から若干減少傾向にあり、それとは逆に「特に不満はない」は一昨年（36.9%）、昨年（37.6%）と徐々に増加し、今回（40.2%）、その傾向がより強まりました。



【水道水の飲用実態】

ミツカン水の文化センターでは、例年、水道水全般の評価を調査してまいりましたが、本調査より飲用水としての評価を明らかにするため、新たに「家庭における水道水の飲用実態・評価」について調査を行いました。ここでは、それらの結果を東京圏・大阪圏・中京圏の差異にも触れながら紹介します。

Q.ふだん家庭で飲んでいる水は？（5択＋その他＋水は飲まない）

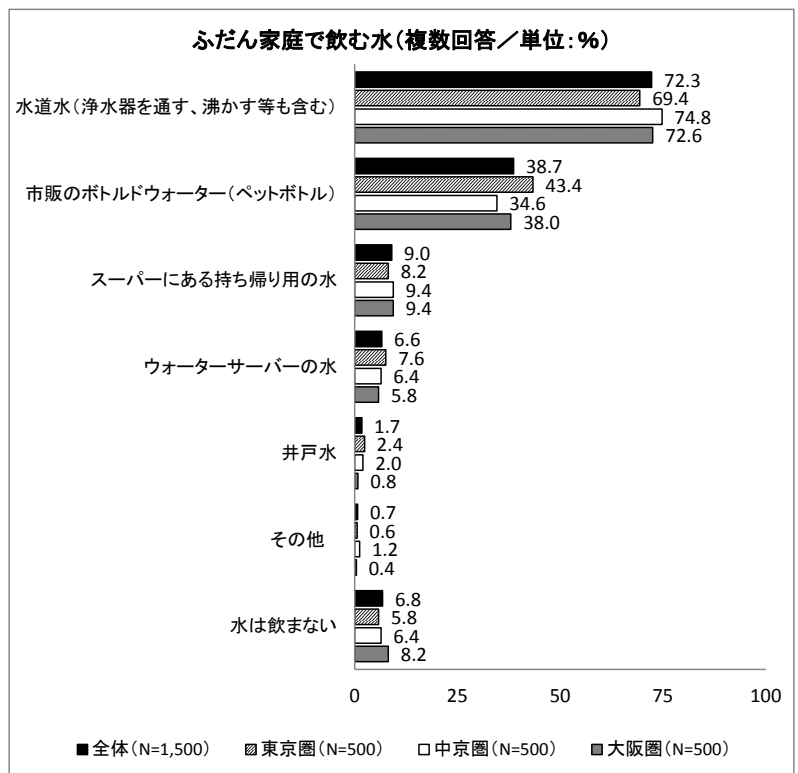
Q.ふだん家庭で最も飲んでいる水は？（5択＋その他）

◇「水道水」は約7割

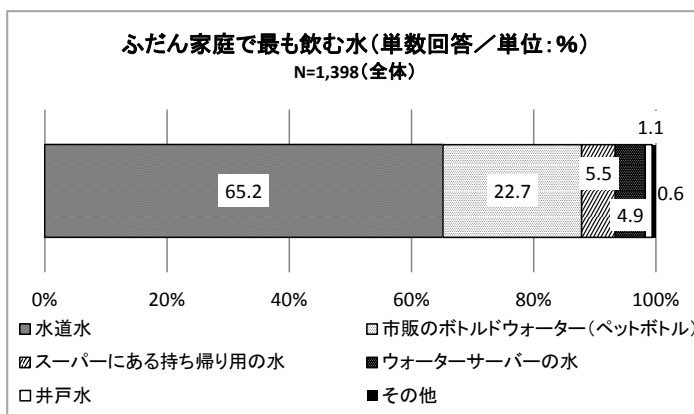
◇最も飲んでいる水は2割超が「市販のボトルドウォーター」

「水道水に対する不満」では、「おいしくない」が3位（不満の2位）でしたが、家庭ではどのような水が飲まれているのでしょうか？

結果は「水道水」（72.3%）がトップで、「市販のボトルドウォーター」（38.7%）がこれに続きました。居住地別も同様の順位でしたが、東京圏では「水道水」が7割を割り込み（69.4%）、「市販のボトルドウォーター」が4割を超える（43.4%）など、他のエリアに比べて「水道水」を飲まない傾向が色濃く出ました。



次に、「水は飲まない」人を除いて「最も家庭で飲んでいる水」を聞いたところ、1位「水道水」(65.2%)、2位「市販のボトルドウォーター」(22.7%)、3位「スーパーにある持ち帰りの水」(5.5%)、4位「ウォーターサーバーの水」(4.9%)、5位「井戸水」(1.1%)となり、約7割の人が家庭で飲むメインウォーターは「水道水」だった一方で、2割超の人が「市販のボトルドウォーター」を最も飲んでいることが明らかになりました。

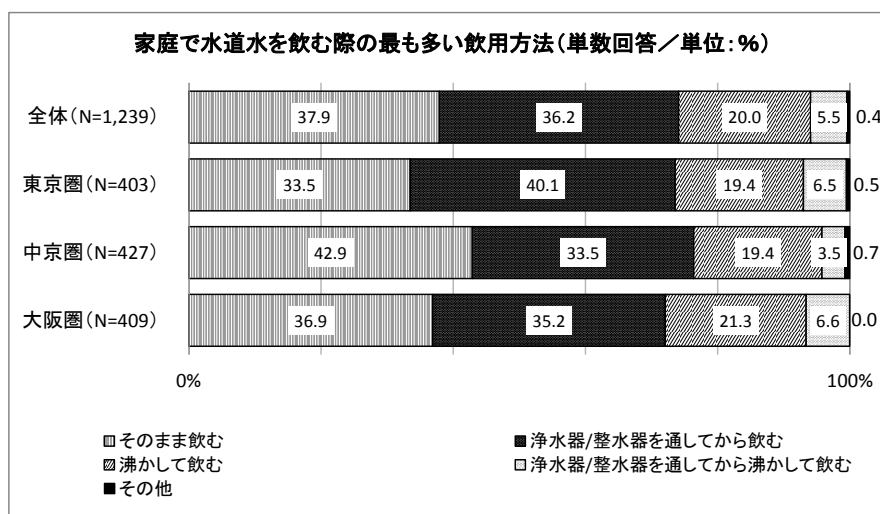


Q.家庭で水道水を飲む際の最も多い飲用方法は？ (4択+その他)

◇「そのまま飲む」がトップも、6割超が“そのまま”では飲まない

東京圏では「浄水器/整水器を通す」が最多

「水道水を飲む際の最も多い飲用方法」を聞いたところ、トップは「そのまま飲む」(37.9%)、2位「浄水器/整水器を通してから飲む」(36.2%)、3位「沸かして飲む」(20.0%)という結果でした。「そのまま飲む」は、順位こそ1位でしたが、2位「浄水器/整水器を通してから飲む」以下、「その他」(0.4%)までの合計62.1%、すなわち6割超の人が、水道水を“そのまま”では飲んでいないという実態が明らかになりました。なお、東京圏においては、「浄水器/整水器を通してから飲む」(40.1%)が「そのまま飲む」(33.5%)を上回って最多となり、前問「ふだん飲んでいる水」の結果も踏まえると、「水道水はあまり飲まず、飲む場合も“そのまま”では飲まない」という傾向がより顕著に表れました。



◇飲用としての水道水評価は、「そのまま飲む」人ほど高得点

3頁の「飲用としての水道水10点評価」を、上記の飲用方法別で見ると、「そのまま飲む人(37.9%)」の平均が7.59点、「何らか手を加えて飲む人(「浄水器を通して飲む」「沸かして飲む」「浄水器を通し、かつ沸かして飲む」「その他」の合計:62.1%)」の平均が6.81点、「水道水を飲まない人(全体の17.4%)」の平均が5.52点と、「そのまま飲む」人ほど高得点であることが浮き彫りとなりました。

飲用方法別の水道水 10 点評価(平均点)

	平均(単位:点)
全体(N=1,500)	6.83
そのまま飲む人(N=469)	7.59
手を加えて飲む人(N=770)	6.81
水道水は飲まない人(N=261)	5.52